

- これまで、流域治水プロジェクトにおけるグリーンインフラの取組では、グリーンインフラがどのように流域全体の環境目標の達成に寄与するかについて流域関係者と共通認識を持てておらず、そのため、目標と現状との差をグリーンインフラの保全・創出に適切に活かす仕組みがなかった。
- 一方、河川内にとどまらず流域全体で、生物多様性の向上・地域活性化・生活環境の向上を通じたウェルビーイングの実現を図るためには、流域関係者のより一層連携した取組が不可欠である。
- そのため、流域の生態系ネットワークに着目し、その現況把握や課題分析、並びに多様な機能を持つグリーンインフラとの関係性を整理した上で、流域環境の保全・創出に係る目標を設定・共有するとともに、具体的な取組を提示できるよう体系化を行う。
- これにより、河川管理者だけでなく、河川区域外のグリーンインフラを所管する流域関係者が共通の目標の下で連携し、取組の実効性向上を目指す。

「流域治水×グリーンインフラ」

・流域治水協議会の枠組みを活用し、
流域治水プロジェクトと連携したグ
リーンインフラの全体像を作成・公表

「河川を基軸とした生態系ネットワークの形成に向けたグリーンインフラ保全・創出の取組」

- ・生態系ネットワークという**流域共通軸**のもと、その基盤となる**グリーンインフラの保全・創出方針を共有**(流域関係者と**重点取組を設定**)
- ・河川管理者は河川環境の定量目標を定め、治水と環境の両立した河道整備を推進

【体系化すべき流れ】

- 生態系ネットワークの基本的な捉え方
 - ・ネットワークの分類、対象とする種の設定方法 等
- 生態系ネットワークとグリーンインフラの関係性
 - ・グリーンインフラの多様な機能の整理方法 等
- 流域の目標設定の考え方
- 流域の関係者との連携の考え方

※検討中のため、内容が変更になる可能性があります
第1回「河川を基軸とした生態系ネットワークの形成に向けた取組の実効性向上に関する検討会」資料より